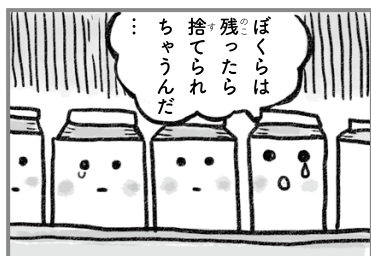




## 食品ロスをなくそう！



©東京ハイジ/ニ宮町

10月は「食品ロス削減月間」。

なぜ、このようなキャンペーンをうつのか。

日本では、まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品(食品ロス)が600万トンあり、一人一日あたりに換算すると「お茶碗一杯分」。(2018年度の国の推計を引用)

また、この量は、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量(2019年で年間約420万トン)の1.4倍に相当するそうです。

皆さんは、こうした状況をどのように感じますか。

世界共通の持続可能な開発目標「SDGs」には、小売(つくる側)・消費(つかう側)レベルにおける世界全体の一人当たりの食料廃棄を半減させるという目標が掲げられています。



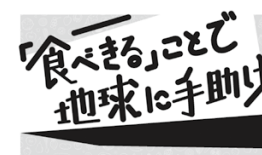
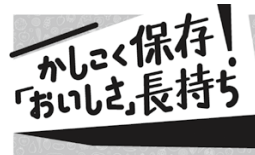
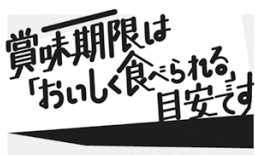
皆さんは、誕生日や〇〇記念日などといった日を気につけて、その日は普段と違った特別なことを感じると思います。

それと同じように、10月の一カ月間は改めて食と向き合うことで、食品ロスを意識して減らすように心掛け、ご家族やお友達など、たくさんの方々と共有しながら、みんなで実践してみてください。

「誕生日おめでとう」と声掛けするように、「食品ロスを減らそうよ」と声掛け、取り組むことは、未来への「+1」につながります。

SDGsに掲げられる目標は、それぞれの目標が互いに関係しあっていることから、食品ロス削減の取り組みは、気候変動対策をはじめ、さまざまな問題解決に向けても良いことづくし！

さあ、どんな工夫で食品ロス削減に取り組みますか。



## 二宮町の未来づくり人をご紹介します④

### NPO法人 農ある暮らしを広める会

2017年12月のこと。「農ある暮らしを広めたい」町民と、「移住希望者のニーズに応じて町を活性化させたい」町民とがつながり、意気投合して二宮農園プロジェクトがスタート！

里山、沢、遊休農地などを再生しながら、本来持っている二宮町の恵まれた環境を取り戻すことを目的に活動し、子どもから大人までの幅広い年代の参加者が、「農」と向き合っって気持ち良い汗を流しています。

SDGsの要素を兼ね備え、二宮の風土を生かした二宮らしい未来づくり。

例えば、お家で小さなプランターを使いミニトマトを育ててみることも、生活を見つめ直し、未来づくりのきっかけとなるかもしれませんね。



二宮農園プロジェクトはこちらから

